



# 2030年に向けた 持続可能な環境学習

グループ名：環境学習チーム  
メンバー：望月晴夫、竹内文男、園田伸隆、富田美穂  
チュータ：後藤尚弘、羽田裕

## 現状の把握(課題認識)

- \* **現状** \* 県政モニターアンケート(平成18年度)によると、県民の環境意識は高いが環境学習や自然保護の活動には結びついていない。
- \* **原因** \* 愛知県では愛知環境学習基本方針に基づき、段階と指針に沿って事業が行われているが、指針に対する事業数を見ると充分でない部分がある。
- \* **課題** \* 持続可能な環境学習を行うため、

- ①機会があれば参加したいと考える人にアプローチする方法
- ②活動主体の協働による活動方法

に改善の余地がある。

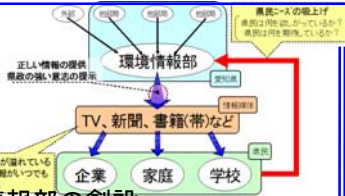
## 2030年に向けての提言の概要

- \* **目標** \* 愛知県が 環境問題について自ら考え、具体的な行動ができる県民で溢れている状態にする！

- 1) **環境情報の視える化**  
いつでも・どこでも環境に関する情報を眼にすることが出来る状態を造り、自発的な環境保全活動を促進
- 2) **協働による環境学習プログラム**  
行政・家庭・学校・企業等が連携し、地域環境に根ざした環境学習を創り、持続的な環境保全活動を促進

以上の二つを提案する。

## 提案の内容



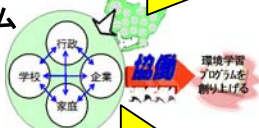
### 1) 環境情報の視える化

- ① 県の部局を越えた環境情報部の創設
- ② 生活環境に近い媒体による情報発信
- ③ 県民ニーズの吸い上げ

活発な情報発信⇒自発的な活動の促進、活性化へ

### 2) 協働による環境学習プログラム

市町村単位で行政職員がコーディネートをし、場を作り、協働でプログラムを創る。



自分たちの環境学習プログラム

⇒自ら学び・考える

⇒プログラムが有効に機能・持続的に発展

## 提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)

- 1) 環境情報の視える化
  - (i) **県民の欲しい情報**  
⇒あいちの環境HP、地デジ双方向サービス等利用
  - (ii) **地域の環境学習成果の公開** (総合学習等)
  - (iii) **環境関連政策の内容、進捗状況** 等の情報発信をする。
- 2) 協働による環境学習プログラム  
市町村・県行政職員のコーディネート力を高め、以下の様なプログラムを増やしていく。
  - (i) **家庭から出発・環境絵本の地域内リユースシステム**  
⇒あいち環境絵本の無料配布、スーパー等を利用したリユース&レンタルシステム
  - (ii) **地域の自然環境に根ざした学習プログラム**  
⇒農耕体験や里山保全活動等。農家、職業専門高校の生徒が先生となり地域の幼児から小学生を対象に授業の一環として参加・経験をさせる。

## 波及効果

### 1) 環境情報の視える化

今ある環境保全行動の活性化、県政に対する県民の理解の向上、県民同士の環境保全活動意識の共有化

### 2) 協働による環境学習プログラム

活動主体間の相互理解が増進(環境活動の進んだ企業への就職希望増等)、社会教育活動の活性化  
子どもの環境・協働等を具体的な行動を通じた学習効果